小中一貫校　南アルプス市立小笠原小学校　学校通信

あかるく　かしこく　たくましく

令和６年２月１４日　Ｎｏ．４７　文責：校長　佐野紳二

２月１４日　バレンタインデー

今日は２月１４日。「２月１４日といえばバレンタインデー」というくらい，すっかり定着している感があるバレンタインデーですが，元々はどんな日だったのかご存じですか？私は「何となくは知っているけど，あんまり詳しくは知らないなぁ…」という程度だったので，ちょっと調べてみました。ということで，今日の学校通信は「バレンタインデー特集」です。

バレンタインデーの起源・由来

「バレンタイン」という名称は，古代ローマ時代の司祭の名前が由来です。ローマ帝国皇帝，クラウディウス２世は，「家族や恋人を故郷に残したままでは兵士の団結心が下がる」として兵士の結婚を禁止するよう命じていました。そんな中，キリスト教司祭のバレンティヌスはひそかに兵士たちの結婚式をおこなっていたそうです。皇帝に知られ，結婚式をおこなわないよう再度命じられたにも関わらず，バレンティヌスは従わず，処刑されてしまいました。処刑された日は西暦２６９年の２月１４日。のちに，バレンティヌスの勇気と功績がたたえられ，毎年２月１４日が「Saint Valentine’s Day（＝聖バレンタインの日)」としてローマ国民が祈りをささげる日となりました。(左の絵はバレンティヌスの肖像画)

現在のようなイベントになったのは１４世紀

バレンタインデーが恋人同士の日として定着するようになったのは１４世紀頃。理由はいくつかあるようですが，有力なのはもともとローマ帝国時代から，家族と結婚の女神「ユーノの祝日」である２月１４日に翌日のお祭りで過ごす恋人を探す催しがおこなわれていたためといわれています。その後，1644 年にはバレンティヌスにはローマ教会から聖人の称号が与えられました。それからのちに彼にまつわる逸話や，親子が愛の教訓と感謝を記したノートを交換する習慣などが混じり合い，２０世紀になると男女が愛を告白する日になったようです。

日本で広まったバレンタインデー

日本にバレンタインの文化が広まったのは２０世紀に入ってから。宗教的な意味合いはほとんどなく，菓子メーカーをはじめとする各業界の販促促進がはじまりだったといわれています。バレンタインデーにチョコを贈る習慣は，兵庫県の菓子メーカー「モロゾフ」の創業者，葛野友太郎氏が始めたと言われています。葛野氏はバレンティヌスの話からヒントを得て，日本で贈り物をファッション化し，新しい生活習慣を育てたいと思っていました。そこで昭和１１（1936）年，当時の英字新聞に「バレンタインデーにチョコを贈ろう」と，ボックス入りのチョコレートの広告を載せました。

1950 年代に赤いハート型の箱入りチョコレートを販売するなど，モロゾフのバレンタイン戦略は業界から注目されました。７０年代になると，モロゾフに刺激された洋菓子メーカーや百貨店がバレンタインチョコレートの販売に力を入れるようになり，洋菓子業界が「バレンタインデーは若い女性が男性にチョコレートを贈る日，１か月後の３月１４日は男性が女性に白いお菓子（マシュマロなど）でお返しする日」と決めて宣伝すると，多くの若者に受け入れられるようになったそうです。

世界各地のバレンタイン事情

日本ではバレンタインといえばチョコレートを贈るのが定番になっていますが，チョコレートを贈るという文化は日本独自のものです。海外ではバレンタインデーにどのようなものが贈られているのでしょうか？

国名	主なプレゼント	贈る相手
韓国	チョコレート	女性から男性
アメリカ	花・ジュエリー・カード	男性から女性
フランス	花・カード	恋人・夫婦
イギリス	花・ジュエリー・カード	恋人
イタリア	バラの花束・ジュエリー	男性から女性
タイ	バラの花束	男性から女性
メキシコ	ラブソング	男性から女性

バレンタインに「女性から男性にチョコレートを贈る」という習慣は，日本の他にはお隣の韓国だけのようです。また，「女性から男性に贈る」という習慣もほとんどないようです。

個人的に気になるのは，やはりメキシコの「ラブソング」でしょうか。これって，自作の曲を贈るんですかね？

日本でも，ちょっと前（だいぶ前かも）から「義理チョコ」や「友チョコ」なんていう言葉が生まれたり自分自身にご褒美としてチョコレートを買って食べる人が増えている，なんていう話を聞いたことがあります。また，コロナ下でチョコを贈る人が減ったという報道を耳にしたこともあります。みなさんにとって，今日のバレンタインデーはどんな日になりましたか？

参考）明治製菓「カカオ・チョコレートの歴史や文化」　https://www.meiji.co.jp/hello-chocolate/culture/25.html
Macaroni「バレンタインの起源はいつから？由来や日本と海外の風習の違いを解説」　https://macaro-ni.jp/143158

いろいろな国の「こんにちは」

先週から，小笠原小の朝の玄関では，児童会役員が中心となってあいさつ運動が行われています。２学期までは「おはようございまーす」という元気な声が響いていましたが，３学期はちょっと様子が違います。先週は「アロハ―」そして今週は「ナマステ―」と，外国語でのあいさつが交わされています。

実はこれ，児童会の取り組みのひとつで，楽しくあいさつに親しんでもらうことを目的に，いろいろな国のあいさつを紹介しながらあいさつ運動に取り組んでいるわけです。なかなか面白い取組みで，子どもたちのアイデアに感心しています。そんなわけで，学校通信も児童会の取組みに便乗させてもらい，いろいろな国のあいさつを紹介してみます。みなさんはどれくらいご存じですか？

国　　名	言　　語	カタカナ読み	外国語表記
アメリカ・イギリス等	英語	ハロー	Hello
中国	中国語	ニイハオ	你好
韓国	韓国語	アンニョンハセヨ	안녕하세요
インド	ヒンディー語	ナマステ	नमस्ते
サウジアラビア等	アラビア語	アッサラーム・アライクム	السلام عليكم
フランス	フランス語	ボンジュール	Bonjour
ドイツ	ドイツ語	グーテン・ダーク	Guten tag
イタリア	イタリア語	ボン・ジョルノ／チャオ	Buon giorno ／ Ciao
ポルトガル	ポルトガル語	オーラ	Olá
スペイン・メキシコ等	スペイン語	ブエナス・タルデス	Buenas tardes
ロシア	ロシア語	ズドラーストヴィーチェ	Здравствуйте
ケニア・タンザニア等	スワヒリ語	ジャンボ	Jambo
ハワイ	ハワイ語	アロハ	Aloha

＊児童会では朝のあいさつ運動に取り組んでいるので「おはよう」なのですが，各国のあいさつは「こんにちは」の方が馴染みのあるものが多かったので，今回はそちらを調べて紹介してみました。